

平成 22 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18404015
 研究課題名（和文） アジア型メインストリートの構成と屋台・露店の再評価
 研究課題名（英文） Composition of Asian Style Main Streets and Re-evaluation of Street Vendors in Asian Cities in Asian Style Main Streets
 研究代表者
 出口 敦（DEGUCHI ATSUSHI）
 九州大学・大学院人間環境学研究院都市・建築学部門・教授
 研究者番号：70222148

研究成果の概要：

ソウル、釜山、上海、香港、ジョグジャカルタ、マラッカ、バンコク、福岡等のアジアの都市での現地調査を通じ、欧米都市とは異なる近代化の過程を経て形成されたアジア型メインストリートの空間構成上の特性と都市の活性化や賑わい創出に供する仮設的要素の役割を整理すると共に、屋台・露店等の仮設的な要素で賑わいを創出しているメインストリートにおける仮設要素の役割や公共空間の利用と管理運営上の課題を明らかにした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2007年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2008年度	4,000,000	1,200,000	5,200,000
年度			
年度			
総計	12,700,000	3,810,000	16,510,000

研究分野：都市計画学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：(1)都市計画 (2)アジア (3)道路 (4)公共空間 (5)仮設 (6)屋台 (7)植民都市 (8)占用

1. 研究開始当初の背景

(1)現代の生きたアジア都市空間の再評価

近代化が進むアジアの都市は、欧米の近代都市をモデルとした整備を進めながらも、独特の都市空間を形成してきた。多くの都市には各都市の骨格であり、都市活動の中心の場であるメインストリートが存在するが、アジアの大都市のメインストリートは、一般にいち早く自動車社会への対応が進められた骨格であり、商業活動や生活様式が凝縮する代表的都市空間でもある。戦後の近代化整備後のメインストリートの使いこなし方は、同標準で道路整備された欧米都市との相違から

アジアの都市空間の特性を見る上で格好の素材である。

また、近代化・欧米化を先に経験した日本人の目から、近代化後のアジア都市のメインストリートの環境を複数のサンプルから比較・分析し、都市空間の構成や利用特性を再評価し、近代化後の都市環境の維持・管理や再整備の方向性を検討していくことは、アジア各都市の固有性、および快適性や保健性の維持・向上のために重要な視点であると考え

(2)都市活動のエッセンスが集約しているメインストリートの解読と賑わいから学ぶ

既に、米国では「メインストリート・プログラム」といった、空洞化・衰退化した中心市街地再生の事業が、公的補助を受けながら推進されており、そこではメインストリートは、中心市街地のシンボルであり、生活空間再生の中心的対象となっている。多数の欧州都市は歩行者優先化を進め、ポスト自動車社会と都市観光にも対応した再整備を行っている。日本の都市のメインストリートは、中心市街地の衰退や環境悪化等の問題空間となってしまうという傾向にあり、本来の都市のシンボル空間としての賑わいと固有の魅力再生は深刻な課題でもあり、再生の方策が求められている。

一方、アジア都市の近代化の過程では、都市を代表するメインストリートは、自動車社会に対応した道路整備の中から再構築され、自動車中心の不衛生な道路環境の中で、それぞれの生活様式に応じた観光と市民生活の両面から歩道や沿道の土地を個性的に使いこなしているように見える。

アジア独自の近代化後のメインストリートの果たす役割・機能や都市のストリート文化を把握することは、アジアの近代都市の成り立ちの理解につながると共に、その賑わいを創出する要素の分析を通じて、日本の衰退化傾向にあるメインストリートの再活性化に示唆を得ることが期待される。

ただ、増大する自動車等で汚染される現在のアジア都市のメインストリート環境が、果たして持続可能な環境であるかどうかも客観的に見極め、改善方策を検討する必要もある。

(3)日本の都市活性化と近年の屋台・露店の見直し

アジア諸都市の特徴を概観すると、多くの都市において、近代化されたメインストリートの中に屋台や露店等の仮設的な要素が多数存在し、主要な空間構成要素となっている。

しかし、屋台や露店は、わが国の例を見ると近代的な都市空間の管理の中で、厳しく規制され、排除され、近代化とともに減少していく傾向にある。ところが、近年になって福岡市では屋台指導要綱を策定（2000年）して道路上の屋台営業を合法的に許可することとなった。帯広等では屋台が都市活性化の新ビジネスとして注目されているなど、屋台・露店の簡便で仮設的な設えが、都市の活性化や観光に役立つ点が再評価されつつあることを示している。

(4)近代都市における公共空間の使いこなし方と管理の課題

近代都市計画は、都市空間の管理区分を明確にすることでもある。近代化された街路空間や公共空間をどのように使いこなしていくかは、近代化の進む世界各都市が、それぞれの特徴を踏まえて考えていく課題である。

アジアの都市においても、近代化された都市における道路、公園等の公共空間を如何に使いこなし、管理していくかは、近代都市の機能と個性的な魅力の両面から検討されなければならない。従来の近代都市空間の管理の考え方では、屋台・露店は公共空間上から排除されていくこととなり、その役割と課題を整理し、解決策を模索する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、既往のアジア都市研究の蓄積を活かしながら、アジア都市の研究対象を選定し、独自のフィールド調査を重点的に実施することで、空間的、社会的、文化的な側面からアジアの近代都市におけるメインストリートと屋台、露店の調査・分析を進め、欧米都市とは異なるアジア型メインストリートの特性を明らかとし、更に屋台・露店の存在意義や優位性を検証していくことを目的とする。

即ち、これまで、排除あるいは撤去の対象でしかなかった屋台・露店がいまだに生き生きと存在し続けていることを積極的に捉え、アジア型メインストリートの概念定義の中心的要素として、近代都市空間および都市社会における屋台・露店の機能・役割を再評価する。その一方で、近代都市空間の管理から見た屋台・露店の立地と近代都市空間の管理上の課題や道路占用の制度上の課題等を明らかにする。

具体的には、下記の4点の観点と目的の下でフィールド調査を実施し、多角的にメインストリートと屋台・露店の調査・分析を行なうものである。

- (1)アジア型メインストリートの特性と類型の定義
- (2)屋台・露店の仮設性・可変性・可動性の利点分析
- (3)メインストリート内での人間のアクティビティ分布の分析
- (4)公共空間としてのメインストリートの維持管理の課題と方策の検討

3. 研究の方法

本研究計画は、文献調査とフィールド調査により構成される。初年度に、日本の主要都市のデータ収集を実施し、初年度から3年次にかけて各年それぞれに、アジア都市のフィールド調査と比較対象としての欧州都市のデータ収集を実施し、メインストリートのデータベースの整備とあわせて、アジア型メインストリートの類型化、欧米都市との比較、および空間構成、空間利用、密度、屋台・露店を含めた仮設物構成と1日のサイクル変化等の特性を整理し、アジア型メインストリートの賑わいの要因分析を行なう。

メインストリートの抽出とデータ整理

アジア都市のメインストリート現地調査
空間データとアクティビティ・データ分析
欧州都市のメインストリートに関する調
査・分析
日本の都市のメインストリートに関する
調査・分析

4. 研究成果

メインストリートに関する基礎的なデータ整理を行なった後に、アジアの都市におけるメインストリートに関する現地調査を実施し、下記の成果を得た。

(1) 国内外主要都市のメインストリートの類型と基礎データ整理

アジアや欧米の主要都市の地図資料や観光情報を収集し、観光情報において一般に掲載されている道路を都市を代表するメインストリートとして定義し、文献調査に基づき、その都市構造上の位置づけや立地特性などの整理を行ない、類型化を行った。

また、屋台・露店などの施設と関連あるアジア都市を代表するメインストリートを抽出し、下記の現地調査を実施し、それぞれのストリートの空間構成、歩行者の密度や滞留行動、回遊行動等の実態と共に、その運営管理上の課題を明らかにし、高密度なアジア都市のメインストリートの空間特性と屋台・露店等の仮設的要素の役割、及び公共空間管理の観点からの課題を整理した。

(2) ソウル市のメインストリートと屋台・露店に関する調査

ソウル市での屋台・露店が立ち並ぶメインストリートとして「鐘路」を選定し、平成 18 年 11 月に役所、全国露天商組合等へのヒアリング調査と鐘路における現地調査を実施した。街路空間や屋台・露店の測量、来街者へのアンケート調査、ビデオ・写真撮影による観察を行い、その結果の分析を進め、鐘路の空間構成や歩行者行動や密度の特性を明らかにした。

仮設的な屋台・露店は、一般に道路占用許可との問題を抱えるが、鐘路では暫定的措置として時間帯を限定して許可され、屋台・露店も組織化され、管理・運営の向上が図られている点を明らかにした。

(3) 上海市のメインストリートと歩行者専用道路の環境に関する調査

上海市では、歩行者専用道路として有名な「南京路」を対象に、平成 18 年 12 月に現地調査を行なった。区役所や専門家へのヒアリングに基づき、歩行者専用化の考え方とデザイン方針、管理運営方法を整理した。

また、現地測量を実施し、配置構成を図面化して、来街者アンケート調査、ビデオ・写真による歩行者分布変化の記録等を行い、その

結果を分析し、歩行者空間の時間変化や空間内でのアクティビティの実態を明らかにした。

(4) 香港市におけるメインストリートと屋台・露店に関する調査

香港での屋台・露店が立ち並ぶメインストリートとして九龍地区の「 temple street」を選定し、平成 19 年 7~11 月にかけて役所、現地の測量調査、ビデオ等の記録調査を実施した。街路空間の平面構成、断面構成と屋台・露店の位置、来街者へのアンケート調査、ビデオ・写真撮影による記録を行い、その結果の分析を進め、密度分布や歩行者行動の特性を明らかとした。

一見、無秩序に見える仮設的な屋台・露店の配置構成に一定の秩序がある点や、行政による管理・運営の向上が図られている点を明らかにした。

(5) 釜山市におけるメインストリートと屋台・露店に関する調査

釜山の調査では、国際市場周辺の旧市街地における屋台・露店が集中する道路「B&C通り」における現地調査を実施した。

観光客のみでなく、住民が利用する商店街の内部に午後の時間帯になると屋台・露店が集中し、道路上が高密度に変化する変容過程についてビデオ撮影、実測調査により明らかにし、利用者や屋台営業者に対するインタビュー調査により、運営の実態や課題を明らかにした。

(6) ジョグジャカルタ市におけるメインストリートの変容と屋台・露店に関する調査

18 世紀に建設されたインドネシアのジョグジャカルタ市旧中心地の南北軸である「マリオボロストリート」を対象にした既往調査の補足調査を行い、同ストリートの空間構成を明らかにすると共に、段階的に変容させながら自動車社会に適応し、現在も移動性・アクセス性・回遊性を維持している実態を明らかにした。

また、同ストリート空間に無秩序に入り込んだ貧困層の雇用の受け皿である屋台・露店が、次第にその営業形態を多様化させ、結果的に沿道店舗との相乗効果や機能の補完を実現していることを明らかにした。

更に、現在では屋台・露店営業は高度に組織化され、限られたストリート空間を使いこなしていく仕組みも整い、発展を続けている点も関係者のインタビュー調査等により明らかにした。

(7) バンコク市におけるメインストリートと屋台・露店に関する調査

バンコク市内には至る所に屋台・露店が見

られるが、主に観光地、ホテル街等の観光の要因、駅や船着場等の交通機関周辺に立地する交通の要因、市場や問屋街周辺に立地する商業等の市民生活に密着した要因があり、来街者の属性や目的が異なる。そこで、既往調査により抽出した特徴的な地区・通りの中から、観光型集中区として「スクンビット通り」、生活密着型集中区であるチャイナタウンの「ヤワラー通り」「チャルンクルン通り」「マンコン通り」、安宿街として有名な地区で歩行者天国化を実施している「カオサン通り」の3地区のメインストリートを対象に既往調査を補足する現地調査と関係者へのヒアリング調査を実施し、屋台・露店の空間構成及び営業の時間変化の実態と課題を明らかにした。

こうしたバンコクの街路では屋台・露店は、その仮設性を活かして、歩道幅員や向かい合う固定店舗の業種や設えに応じた断面空間構成をとっており、店舗が営業を終えたり、車道が歩行者天国になるといった状況の変化に応じて、屋台・露店の断面空間構成も一日の中で作り変え、その時間変化が終日の賑わいを創出し、屋台・露店営業とゆとりある歩行者空間の確保が人の滞留を引き起こしている実態を明らかにした。

バンコクのメインストリートでは、立地環境に応じた業種や断面空間構成に関する屋台・露店の適応性と時間変化が一日を通して街路空間を何度も作りかえながらその賑わいを持続させていることが明らかになったが、その一方で、周辺店舗や歩行者空間との共存を図りながら、管理制度の充実や営業者による組織化が課題でもある。

(8) マラッカ市におけるメインストリートの歩行者天国化と屋台・露店に関する調査

マラッカはマラッカ王国に始まり、ポルトガル、オランダ、イギリスと様々な宗主国や移民の影響で多彩な街路空間を形成しており、その独特なまちなみは2008年7月にUNESCO世界文化遺産に登録された。

本調査では、世界遺産地区内のメインストリートである「ジョンカーストリート」が毎週末の金、土、日の18:00~24:00に歩行者天国となり、ナイトマーケットが開催されることに着目し、現地調査等を実施した。

その結果、運営の仕組みとして地元住民らで構成するジョンカー・ウォーカー委員会(JWC)が、管理運営のルールを定めて同ストリートを歩行者天国化し、自主的な管理の下、ナイトマーケットを開催した経緯や、歩行者天国化を契機にして観光客の数や屋台・露店営業の数は年々増加傾向にある点があった。

ゾーンごとの業種タイプの集中度や歩行者天国時間内外で全く違った表情をみせる

実態、及び同ストリートにおける屋台・露店の仮設性による街路空間変化の二面性と屋台・露店が創り出す空間と歩行者のアクティビティの関係を明らかにすると共に、歩行者天国化と屋台・露店が果たしている世界遺産地区の賑わい創出に供する役割を明らかにした。

(9) 福岡市における屋台景観の評価に関する分析

次に、屋台の仮設物の配置とストリート景観との関係に関する分析を行った。対象地の福岡市は、道路等の公共空間における屋台の営業を3つの組合に所属する屋台に限り、占用許可や使用許可を与えるなど、わが国の都市の中でも屋台に対しユニークな政策を取っている都市である。約180件の屋台が都心部で営業しているが、数軒が集合した屋台や単独で設置された屋台などの配置パターンがあり、夜間に屋台が営業することで、屋台が出店していない都市空間に比べ、独特の景観を演出している。

そこで本分析では、まず屋台の立地場所や配置パターンを整理した後に、屋台景観の写真画像を用いて、一対比較法との手法により披見テストを行い、屋台の構成、形態、設えの違いによるストリート景観の印象に及ぼす影響を明らかにし、屋台のストリート景観の創造に果たす役割について考察した。

(10) 福岡市のメインストリート上でのモータールファーマニチャ事業に関する研究

近年、先進国の大都市都心部での広告付きバス停の普及を契機として、広告事業によるメインストリート上での広告付きサイン等の運用の検討が進んでいる。本研究ではそうしたサインを仮設的な工作物の一種として捉え、ストリートを構成する景観要素としての設置可能性や制度上の課題を文献調査等により明らかにし、アジア都市のメインストリートの今後の近代化について考察した。

本研究では、以上の屋台・露店が集中するアジアの都市におけるメインストリートに関する現地調査を遂行し、タイプの異なるアジア都市のメインストリートの空間構成や屋台・露店等の仮設的要素の実態の把握と管理運営上の特徴や課題を明らかにした。

それぞれの都市の代表的な屋台・露店で賑わうメインストリートの実態把握と仮設物で構成される道路空間構成の分析を通じ、植民都市等として近代化の過程の中で進んだ道路基盤整備や伝統的建築物を保全、活用しながら、屋台・露店の仮設的で自然発生的な要素をも包含し、空間を変容させ、柔軟な運営による課題への対処を進めながら賑わいを創出してきたアジア型メインストリート

の特色を明らかにした。

アジアの屋台・露店は発展途上の都市に無計画に発生し、街路空間は一見して無秩序なものと映るが、中には相互に折り合いをつけながら運営してきた実態もある。このような無秩序な中に潜み、組み立てられた相互の協調関係を屋台・露店空間から見出す視点から、アジア都市の賑わうストリートは評価される必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

濱田貴弘、出口敦、福岡市における屋台景観の印象評価に関する研究、都市・建築学研究、九州大学大学院人間環境学研究院紀要第17号、pp.35-42、2010年、査読有
Rhan See CHUA and Atsushi DEGUCHI、Change of Building Use in Old Residential Quarter of Melaka City, Malaysia as a UNESCO World Heritage Site、都市・建築学研究、九州大学大学院人間環境学研究院紀要第16号、pp.33-46、2009年、査読有
出口敦、福岡市天神地区における社会実験からエリアマネジメントへの展開、交通工学43巻6号、pp.26-31、2008年、査読無

[学会発表](計11件)

石神絵里奈、出口敦、「渡辺通り」を通してみる福岡都心の変遷に関する研究、日本建築学会研究報告九州支部、第49号・3、pp.449-452、2010年3月7日、長崎総合科学大学

瓜生宏輝、出口敦、世界文化遺産都市・マラッカの歩行者天国に関する研究、日本建築学会研究報告九州支部、第49号・3、pp.249-252、2010年3月7日、長崎総合科学大学

森田翔、出口敦、滞留行為の優位性に着目した歩行者天国に関する研究 - 福岡市西新商店街を対象として -、日本建築学会研究報告九州支部、第48号・3、pp.465-468、2009年3月8日、琉球大学

濱田貴弘、出口敦、「屋台景観」の印象評価に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集 F-1、pp.849-850、2008年9月19日、広島大学

濱田貴弘、出口敦、「屋台景観」の印象評価に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1、pp.849-850、2008年3月2日、崇城大学

中牟田裕、出口敦、香港の屋台・露店で賑わう街路の空間特性に関する研究、日本建築学会九州支部研究報告、第47号・3、pp.497-500、2008年3月2日、崇城大学

出口敦、守山健史、ソウルの賑わうメインストリート鐘路と屋台・露店に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1、pp.395-396、2007年8月29日、福岡大学
多田麻梨子、出口敦、商店街整備・運営における商店街組織の役割に関する研究 - 新天町商店街を事例として -、日本建築学会大会学術講演梗概集、F-1、pp.247-250、2007年8月29日、福岡大学

守山健史、出口敦、ソウルの賑わうメインストリートと屋台・露店に関する研究、日本建築学会九州支部研究報告、第46号・3、pp.489-492、2007年3月4日、日本文理大学

多田麻梨子、出口敦、商店街整備・運営における商店街組織の役割に関する研究 - 新天町商店街を事例として -、日本建築学会九州支部研究報告、第46号・3、pp.473-476、2007年3月4日、日本文理大学

Dachang YUAN, Shichen ZHAO and Atsushi DEGUCHI, China's Retail Business Status of Small, Medium and Large-sized Cities and Development in the Future, International Symposium on Sustainable Habitat Systems, pp.13-20, 2006, Kyushu University, Fukuoka, Japan,

[図書](計1件)

Shigeyuki Kurose, Atsushi Deguchi and Shichen Zhao, Emerald, "Pedestrian Behavior: Models, Data Collection and Application", 2009, pp.267-282

6. 研究組織

(1)研究代表者

出口敦 (DEGUCHI ATSUSHI)

九州大学・大学院人間環境学研究院・教授
研究者番号：70222148

(2)研究分担者

南博文 (MINAMI HIROFUMI)

九州大学・大学院人間環境学研究院・教授
研究者番号：20192362

有馬隆文 (ARIMA TAKAFUMI)

九州大学・大学院人間環境学研究院・准教授
研究者番号：00232067

趙世晨 (ZHAO SHICHEN)

九州大学・大学院人間環境学研究院・准教授
研究者番号：80304848